



おかくらてんしんせんせいきょうぞう  
「岡倉天心先生胸像」平櫛田中作

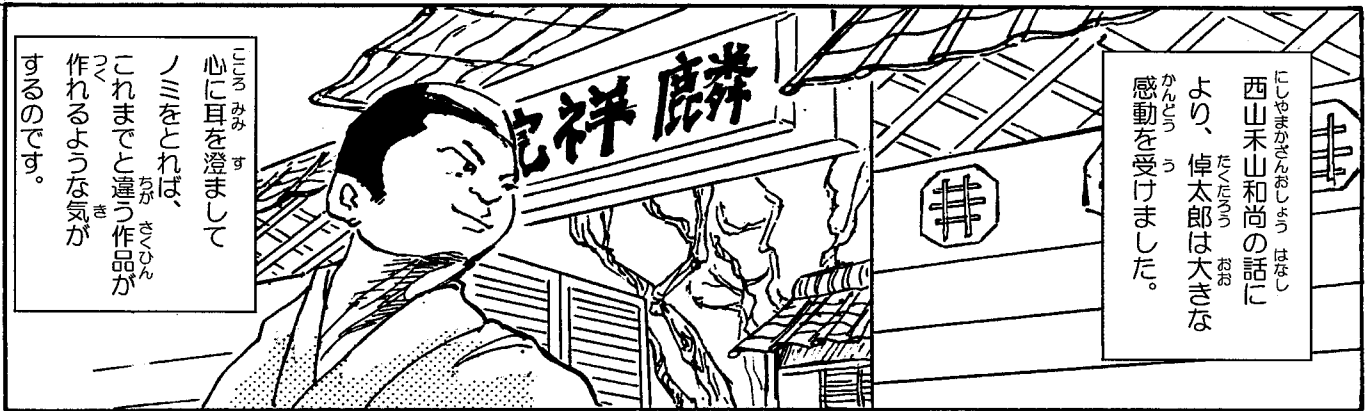
# 田中彫刻記

でんちゅうちょうこき

にほんびじゅつ しどうしゃ  
第四話 ～日本美術の指導者～

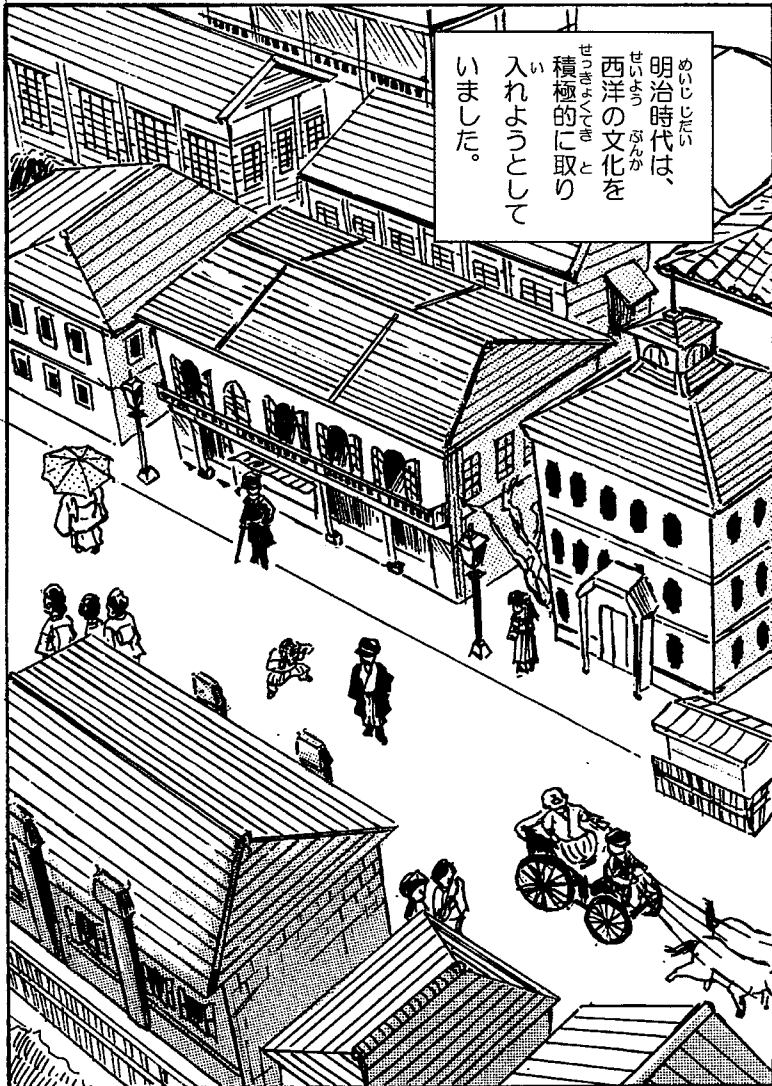
Takashi

作 ©いとうたかし

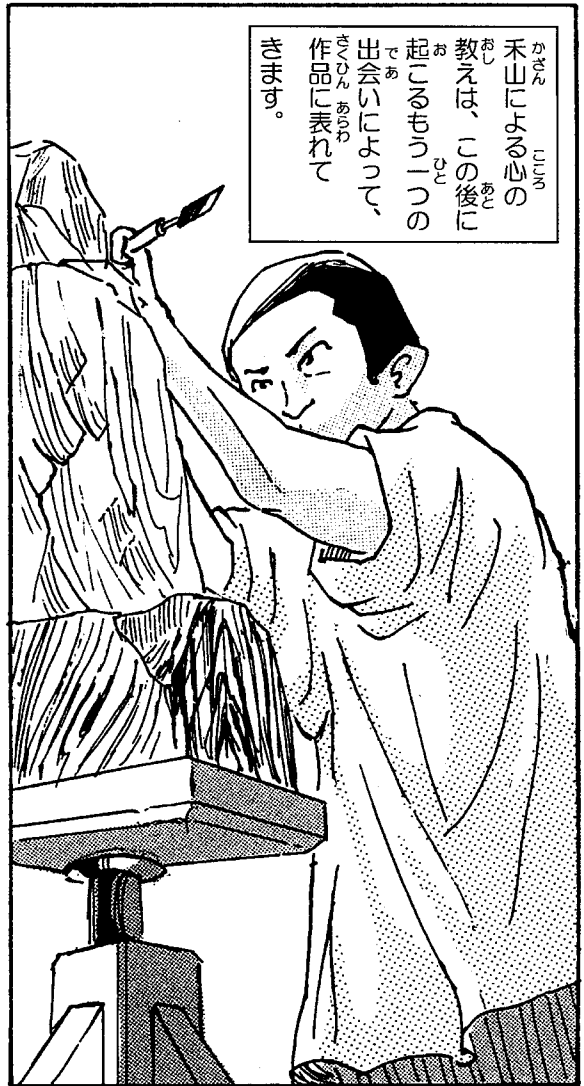


心に目を澄まして  
ノミをとれば、  
これまでと違う作品が  
つくられるような気が  
するのよ。

「西山禾山和尚の話」  
より、俣太郎は大きな  
感動を受けました。



明治時代は、  
西洋の文化を  
積極的に取り  
入れようとして  
いました。



禾山「よめる心」の  
教えは、「この後に  
起こるもの」の  
出合いにより、  
作品に表れて  
きます。



仏教信仰は  
下火となり、  
仏像の必要性が  
減ったため、  
木彫が  
衰えてきました。



そんな中、  
俵太郎を指導している  
高村光雲は、  
伝統的な彫刻を  
守り続けていました。



木彫よりも、  
西洋から来た  
ブロンズ作品の方が  
目立つ傾向にありました。



日本美術を研究し、  
指導してきた  
岡倉天心という人です。

伝統彫刻を志す  
新人はおりませんか



もう一人、日本の  
伝統を強みにして  
日本美術を盛んに  
しようと頑張る  
人がいました。

日本画の方は振興の  
糸口がいたのですが、  
彫刻はまだです…